

東日本大震災被害に対する福島県いわき市における 支援記録

加藤, 宏純

<https://doi.org/10.15017/1397850>

出版情報：地域健康文化学論輯. 4, pp.1-10, 2011-03-31. 地域健康文化学会
バージョン：
権利関係：

特別寄稿

東日本大震災被害に対する 福島県いわき市における支援記録

加藤 宏純

貴重なレポートを寄せてくださいました加藤宏純氏は日産自動車の社員です。強豪日産自動車陸上部の長距離選手や監督を長く勤められましたが、現在は一般社員として勤務されています。

このたびの東日本大震災では日産自動車いわき工場は大きな被害を受け、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故で、いわき市全域の復旧に困難が予想されたため、日産自動車は本社などから多くの社員を派遣し、工場のみならずいわき市全体の復興に尽力されています。

加藤氏はなかでもリーダー的役割を以ていわき市の各所で献身的に働いておられます。その活動は今後何カ月も続きますが、このたび、本誌にその最初の記録をお寄せ頂きました。

この大切な記録を本誌ではあえて生の形の資料として掲載します。

寝ることも食べることも容易ではない中で、このような記録を残されること自体が敬服に値しますし、読者にはわからない走り書きのような部分もあることが、かえって今後の危機管理の参考になると思われれます。

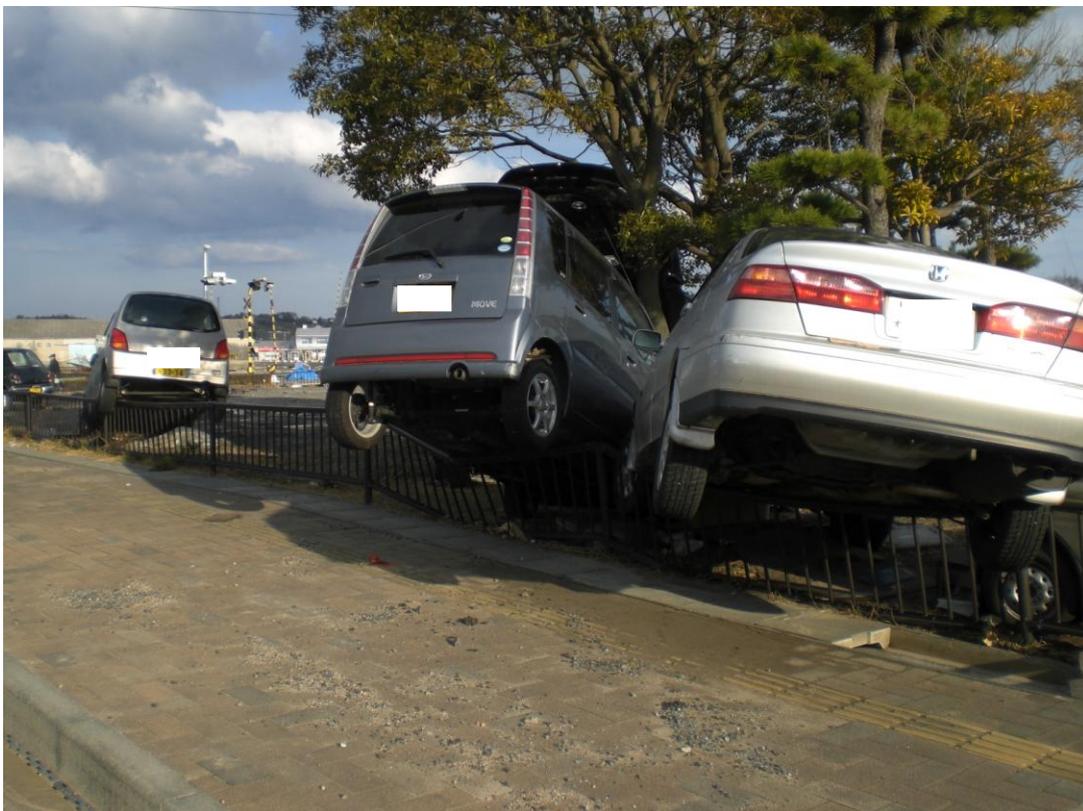
また、自身の行動のエネルギーを計る目安として、毎日の歩行距離を万歩計で計られるなどの、緻密な面も参考にしなければなりません。

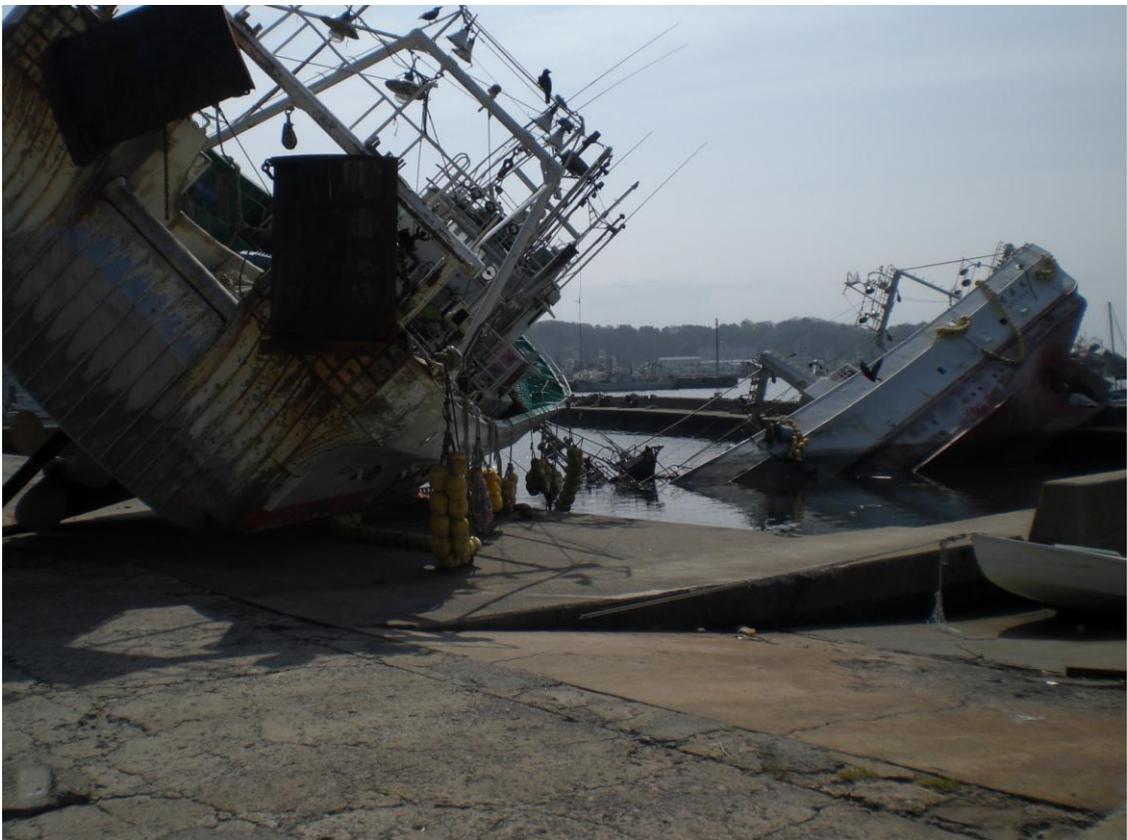
災害の規模の大きさ、放射能被害という質の難しさを考慮すると、今後とも、復興支援活動はかなりの長期にわたることが予想されます。

人間としてそれぞれが出来ることをしていくことで、少しでも早く、被災地を復興し、その地の方々がもとの平穏な生活を送って頂けるようにお手伝いしなければなりません。このたびの日産自動車の素早い取り組みと自社を超えた働きは評価に値するものですし、それはこの記録に見られるような社員ひとりひとりの努力によって構成されています。そのことを感じつつ、今後の危機管理の方法を熟考したいと思います。

荒木正見記

写真：いわき市における被害状況（加藤宏純撮影）









東日本大震災当日のレポート

2011年3月11日（金）

当日は、日産本社21階で調整会議をしていました。

地震は、それまでも度々ありましたので、また揺れ出したと思っていましたが、一向に止まる気配も無く徐々に酷く大きな揺れへと変わって行きました。

上から何か物が落ちてきては困ると思い、頭をノートと資料で押さえながら揺れの止まるのを待ちました。

時間にしてどれぐらい揺れたか分かりませんが、私の思い込みでは3分程、揺れたと思います。

「とうとう関東大震災が来たか・・・」と感じながら、更に酷くなるんじゃないかと想像してました。

21階に居たので、ビルが倒れるんじゃないかとも思ってましたが、そうこうしている内に揺れは治まりました。

9階が人事部のフロアなのでエレベータがストップしていたので階段で降りました。非常扉は閉まって、出来たばかりのビルですが、少しヒビが入っている箇所もありました。

9階に戻ってTVを付けましたが、臨時ニュースばかりで仕事どころではなかったです。

そうこうしている内に、2度目の大きな長い地震がまた来ました。

やっと治まってTVに釘付けになってましたが、津波の生の映像が目に入って来て思わず絶句しました。

本社の災害対策本部が直ぐに設置され、

人事部の細かい事の調整役を任せられました。

人事部員169名の怪我があるかどうかの確認・帰宅難民は何人いるかの確認・毛布の運搬・夕食の確認等で走り回ってました。

7階に妊娠中の女性も二人いたので部屋を確保しました。

毛布は4階の備蓄倉庫にある事が分かったので違う階の人にも教えて回りました。

日産の玄関にも一般の帰宅難民が多数居たので毛布を配ったり、水を配給したりもしました。

あらゆる交通機関がストップして歩いて帰れる人だけ自己責任として帰宅が許されました。

日産本社の前の道は、渋滞して全く車は動けない状態でした。都会はどこも渋滞でパニック状態でした。

夜食を食べて暫くして人事部も落ち着いてきたので帰宅しました。12時は回っていたと思います。

本社から自宅まで8km程ですから、全く問題はありません。

この時ばかりは、陸上をやって良かったと思います。8kmは長い距離に感じませんでした。

支援の経緯

3月17日（木）

人事部長よりいわきの復興支援を頼まれる。「快諾した」

3月20日（日）

出発、ガソリンが持たないので栃木工場に向う。

3月21日（月）

栃木工場で満タンにしてからいわき工場へと向う。

いわき市は、原発の影響で自宅待機になっていた。全く人は歩いておらずゴーストタウンに車を走らせている様だった。

街は、家が傾いていたり、塀が倒れていたり、地震の影響で道が陥没していた。

そんな中、いわき工場の社宅の自治会館に到着しました。

工場内に入れないので、ここが災害対策本部になっていました。

小沢工場長始め、20名程の職制が「今、出来ること」を黙々となして居ましたが、「いわき工場を復興させるんだ！と言う熱気は凄いものを感じました」

この熱気で私も俄然やる気が出て、お手伝いしたい気持ちが沸きました。

そうこうしている内に地震が発生して、数時間に1回の割合で起きてます。

工場長と話をして直ぐにドミトリーに向かいました。

各事業所・工場から応援者がどんどん来るので、これの受け入れをどうするか？の検討と現場（寮）の確認作業から入りました。

総勢150程が入れる、寮に二人部屋を作って相当数の応援者を受け入れる準備を進めました。

各部屋の備品の確認から始めました。電気は付くか、エアコンは？布団はあるか？テレビは付くか？スリッパはあるか？等、ひと部屋毎に応援者と2名で確認しました。

結構時間が掛かったと思います。

寮生も居ますので、応援者は何人まで来ても大丈夫だと夜の内に結論を出しました。

しかし、応援者は勝手に来たりもするので、てんでこ舞いでした。予約も一本化にして混乱を防止しました。

3月22日（火）

いわき工場に行き、支援物資の在庫確認をしました。

大きな会議室2つに沢山の支援物資が山積みされていました。

まずは、アルファ米がどれだけあっていわき工場の従業員と応援者の食料は何日分あるか計算しました。

約1週間分あると分かったので、それまでに弁当の手配は出来るかの相談をしました。

午後からはいよいよ支援物資の配給をしました。従業員と従業員の家族に1日1食分を配給しました。

先日、記入した様な事を従業員の方は言って、本当に感謝して貰いました。

配給をやって現場の方々と接する事が出来てよかったと思います。

こういうことが、あったので「いわきの人を何とかしたい」と強く思いました。

*思う事は、被災地と本社とでは、温度差やギャップが多い。

タイムリーにどんどんと進めなければならない。本社にお伺いを立てている場合じゃない。

今、必要とされる物は直ぐに届けてあげたい。我慢している人が多い。

3月23日（水）

少し、時間があつたので小名浜港へ出向いて視察してきた。

現場は、TVで見る景色とおなじで車が横転してたり、フェンスに引っかかっていた。家もかなりの被害に遭っていた。

話す言葉も出ず・・・ただ「あー」としか出てこなかった。

ここでも何とかしなければと強く思った。

3月25日（金）

帰るまで支援物資の配給を行う。

3月28日（火）

岐路

勿来インターへ向う途中で少し勿来を視察した、ここも被害は酷かった

1人で片付けている人がいた。

何から手をつけて良いのか・・・思案している様に見えた。

無事に横浜へ帰ったが、何とかしたいと言う気持ちは依然続く。

NTCへ転勤になり

地域貢献活動が業務の一環となる。

すぐにボランティア活動を企画した。

企画してから大変な日々が続いたが、被災者の為にやるんだと思うと自然に体が動いてしまった。

4月28日～29日と活動をした。（いわき市で有名な観光スポットの「ららミュウ」という所のお手伝いをさせて頂きました）

ボランティアは勿論ドミトリーのロビーで雑魚寝、これでもやりたいと多くの方が参加した。

5月も3回土日を利用して行く予定。

行動記録 2011. 3. 20-28



| | 歩数 | 歩行時間 | 歩行距離 | 消費カロリー | 日中&備考 |
|-----|-------|------|-------|--------|-------------------------------|
| 20日 | 8623 | 71 | 6031 | 427 | 本社 いわきに向けて栃木工場上三川寮で宿泊 |
| 21日 | 10313 | 91 | 7213 | 470 | 栃木工場からいわき工場へ スキルセンター・社宅・ドミトリ寮 |
| 22日 | 14338 | 122 | 10020 | 699 | 支援物資従業員・家族へ配給 鎌田さん |
| 23日 | 11249 | 98 | 7869 | 544 | 支援物資従業員・家族へ配給 |
| 24日 | 11149 | 101 | 7796 | 504 | 支援物資従業員・家族へ配給 新堀さん |
| 25日 | 16628 | 151 | 11630 | 786 | 支援物資従業員・家族へ配給 |
| 26日 | 11020 | 98 | 7707 | 499 | 在庫確認 |
| 27日 | 8707 | 88 | 6089 | 374 | 健康ランド・寮へ物資運搬 |
| 28日 | 12323 | 104 | 8619 | 611 | 支援物資配給・ガソリン給油・いわきから戻る |

2011. 3. 24 のメール

加藤さん、衣笠さん
本件の対応、誠にありがとうございます。

いわき工場 小沢伸宏 (Nobuhiro OZAWA) ←いわき工場長

Subject: FW: 従業員・家族支援物資配給について

いわき職制各位

火曜からはじめている従業員・家族への食料配給ですが、本社から支援頂いている加藤さんに相当助けていただきました。今日時点で、約250名程度の方がこれ、反響を加藤さんが纏めて頂けました。ご参考までに。非常に喜ばれています。

衣笠 ←いわき工場の総務・人事課長

従業員・家族支援物資の件

いわき従業員・家族からの生の声です。(物資を配って喜んで頂いてます。)

- ・物資が無いので非常に助かる。
- ・避難所から来たが、避難所には一日おにぎり1個しか貰えないので助かる。
- ・公民館で水を配ると聞いて、3時間並んでペットボトル1本しか貰えないので助かる。
- ・スーパーに並んでちょっと遅れたら食料は無く、油しかなかった。
- ・スーパーに並ぶのが嫌になってきたので助かる。
- ・ガソリンを給油するのに朝の5時半から並んで15時半にやっと順番が回って1000円しか入れられない。
- ・オムツは助かる。赤ちゃんのミルクは助かる。
- ・「本社から物資を送って頂いて感謝してます」と言う声もあります。
- ・ガソリンが無いので近所の従業員から頼まれて来ている人も居ます。
- ・未だ、水道・ガス・電気が通ってない所がある。

* 本社から送って貰った毛布は、希望者が居なくて倉庫に積んであるだけ
(避難所に持って行くか？いわき工場に備蓄と言う形が良いかと思えます。)

[Report of the rescue operation in Iwaki city, Fukushima prf. about the
Aftermath of the 2011 Tohoku earthquake and tsunami]
[KATOU, Hirozumi・日産自動車株式会社社員・元陸上部監督]

※ 以上、できるだけ生な情報を掲載しました。

もはや余分な批評は不要でしょう。

一企業や一会社員の方々が緊急時にどれほど真剣に対応されたか、
現在もされているか、そのことを感じ取って私たちの行動へと
活かしたいと思います。